

子どもや子育て家庭が気軽に利用できる居場所の整備事業

【NPO法人おやこ劇場松江センター・ガキ大将養成委員会・NPO法人緑と水の連絡会議・青少年家庭課】

取組の背景

- ・小学生等の居場所は、数はたくさんある。しかし、大人目線でつくったものが多く、本当の子ども目線の居場所は少ない。
- ・居場所のない子や孤立していると思われる親がいる。
- ・中高生の居場所や困難を有する子ども・若者の居場所が少ない。
- ・数を増やすことも必要だが、質を高めることも必要。

事業概要

子どもたちが健やかに成長し、地域全体で子どもの成長を見守っていくために、子どもに寄り添った子どもの居場所「しまね・ほっとプレイス」を提案し、県内の様々な場所で「しまね・ほっとプレイス」が開設・運営されるような仕組みづくりをしていく。

実施団体と行政それぞれの役割分担

- 提案団体（NPO法人おやこ劇場松江センター・ガキ大将養成委員会・NPO法人緑と水の連絡会議）：モデル事業・シンポジウムの企画・運営、ガイドブックの作成、居場所に関する調査、居場所団体との連携、居場所開設の支援
- 青少年家庭課：シンポジウムの企画・運営、ガイドブック作成等、活動への協力・支援（広報・周知、関係機関・団体との連携、活動しやすい環境づくり等）、居場所に関する調査（行政活動を担当）、居場所に関する行政窓口

主な事業内容

- ・多様な主体が居場所事業に参入しやすくするため、乳幼児期、学童期、青年期の子どもを対象に様々なタイプの子どもの居場所を提案団体がモデル事業「しまね・ほっとプレイス」として立ち上げ、立ち上げから実施までの過程、及び実施に至るまでの過程を経験し、そこで得られた経験（よい点・問題点など）などを載せたガイドブックを作成する。
- ・提案団体や既存の居場所事業者及び行政（県・市）を中心にシンポジウムを通じた情報・意識共有を行い、居場所ネットワークを構築するとともに、官民連携の居場所づくりの仕組みを作っていく。

事業の主な成果

- 島根県内の既存の居場所調査及び視察（資料収集・整理、視察）
- キックオフシンポジウム
期日：2017年6月18（日）
場所：いきいきプラザ島根
内容：基調講演・事例発表・ワークショップ
参加人数：110人（うち：中学生16人、高校生6人、大学生9人）
- メーリングリストによるネットワーク「しまね・ほっとプレイス」の構築
加入件数：19（団体・個人）
- ガイドブックの作成（全20ページ、500冊）
内容：各団体の実践事例、居場所の作り方
トップ1～3、県内の居場所事例、支援機関の紹介、居場所立ち上げQ & A

工夫・ノウハウ

- 実施団体との協働体制
定例会の実施（月に1回）、メーリングリストを活用しきめ細かな連絡調整を行うことで役割分担の明確化と協働意識の醸成を図った。
- 各団体の居場所づくりモデル事業
3団体がそれぞれの特徴をいかして実際に居場所づくりを行うことで、新たに居場所づくりに取り組む者の視点に立ち課題と成果、それぞれのノウハウをいかしたガイドブックを作成することができた。
- 実際に利用する子ども・若者が参加したキックオフシンポジウムを開催し、大人と子どもとの意見交換、メーリングリストの広報と加入呼びかけを実施した。

今後の活動方針

各団体の人脈や行政の広報力を活用したガイドブックの広報、シンポジウムの継続的な開催、メーリングリスト「しまね・ほっとプレイス」の拡充等を行い、行政と居場所の運営者、利用者等居場所にかかわる人々の繋がりを推進する。もって、県内の様々な場所で「しまね・ほっとプレイス」（子どもに寄り添った子どもの居場所）が増えていくことを目指す。